

資料 4

(4) スケジュールについて

1 手続き（見直しを行う場合）

地方公営企業の経営戦略の見直しについて、国のガイドライン等や他の公営企業の例にならうと、経営戦略（経営ビジョン）を見直す場合には、一般的に次の手続きが想定される。

- ① **外部有識者への意見聴取（本懇話会）**
- ② **外部コンサルタントへの業務委託**
- ③ **流域関連市町との調整**
- ④ **県民意見募集（パブリック・コメント）**
- ⑤ **県議会への報告**

2 スケジュールに影響する動向

5月16日 国交省 **有識者委員会**「下水道等に起因する大規模な道路陥没事故を踏まえた対策検討委員会」



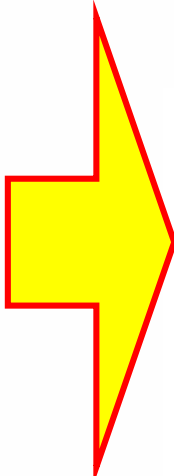
第6回会議 → **第3次提言は「夏頃」**に提示される見込み

7月24日 第7回会議 → **第3次提言の提示時期が不透明に**

8月21日 国交省 **技術基準等検討会**「下水道管路マネジメントのための技術基準等検討会」

第1回会議 → 有識者委員会の提言等を踏まえて、下水道管路に係る点検や再構築に関する具体的な基準等を検討し、


今年末を目途に中間整理を行う見込み



主要施策や収支見通しなど、経営戦略の中核となる事項への大きな影響が予想される上記の「提言」「技術基準」が示される時期が今年末以降にずれこむ見込みのため、
**経営ビジョン改定に向けては、
当初のスケジュールの大幅な見直しが必要**

3 想定されるスケジュール

	①	②	③
改定時期	令和 7 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
下水管に係る 国の提言・基準等 の反映	×施策・収支の両方 に反映できない	△施策の方向性を 反映できる (収支には反映で きない)	○ 施策・収支の両方 に反映 できる
下水管以外に係る 見直しの反映	○反映できる	○反映できる	○反映できる
施策の意義や 収支見通しの精度	×重要事項を施策に 反映できないため、 意義が低い ×収支見通しの精度 が低く、実態と 大きく乖離する おそれが高い	△重要事項を施策 に部分的に反映 できるため、一定 の意義はある ×収支見通しの精度 が低く、実態と 大きく乖離する おそれが高い	◎ 重要事項を施策に 十分に反映 できる ため、意義が高い ○ 収支見通しの精度 が高く、実態に近 い推計が可能

 使用者や市町といった関係者の理解を得るには、
③が最も適切